

本市の特徴のまとめ（強みと弱み）

項目 特徴	(1) 「地域の水道」のあり方	(2) 将来世代を見据えた事業のあり方	(3) 直営と委託 公営企業としての責任	(4) 府域一水道と 広域連携の考え方
強み	<p>ア 地下水の浄水処理施設と水づくりのノウハウを持っている。</p> <p>イ 市民の行政に関する意識が高く、行政側の要請に対して積極的に参画していただける。</p> <p>ウ 歴史的に吹田に根付いた水の文化・風土があり、水道事業運営に関して市民の方々の理解が得られやすい。</p>	<p>ア 市街化が進んできたことで住宅や事業所が集中しており、効率的な管網ネットワークの構築が可能である。</p> <p>イ 南北にかけて緩やかな標高差のある地勢で、標高差を利用した自然流下による配水が可能である。</p> <p>ウ 地下水源があり、災害に強い複数水源の確保ができています。</p> <p>エ 施設整備に関する長期的な展望（吹田市水道施設マスタープラン）を持っており、無駄の少ない計画的な施設整備が可能である。</p>	<p>ア 長年にわたり多様な浄水処理を行っているほか、水道GLPを取得し適切な水質検査を行うなど、高いレベルの水道技術を有している。</p> <p>イ 職員の水道に関する業務経験年数が長く（全国平均の約1.5倍）で、熟練の技術者が多い。</p> <p>ウ 十分な研修時間を確保できているほか、他事業体との人事交流や研究発表の推進など、人材育成、技術・技能継承に積極的に取り組んでいる。</p> <p>エ 技術・技能継承の重要性が市議会（市民）にも御理解いただいている。</p>	<p>ア 平成28年4月から2年間で10%の水道料金値上げをさせていただいたが、現時点でも府内で安い料金水準を維持している。</p> <p>イ おおむね40年先の将来像を描いた「吹田市水道施設マスタープラン」を策定し、水道施設の再構築を推進している。</p> <p>ウ 技術職員を中心に人材の確保ができています。</p> <p>エ 歴史的な背景、規模及び地理的条件等が類似した水道事業体が隣接しており、水平連携の推進に適した環境にある。</p>
弱み	<p>エ 行政組織の一般的な弱みとして広報・広聴が不得手であり、一層の工夫が必要である。</p> <p>オ 大量使用者（大学、病院等）の地下水利用専用水道への転換が進むことで、経営悪化はもとより地域の水道としての弱体化に繋がる。</p>	<p>オ 近い将来に人口減少への転換が見込まれ、水需要の更なる低下（給水収益の減少）により市民1人当たりの負担の増加が懸念される。</p> <p>カ 老朽化により更新が必要な施設、管路が多く、更新及び耐震化に多額の費用が必要で、起債残高の増大、将来世代への負担増加が見込まれる。</p>	<p>オ ベテラン職員の退職に伴う急激な世代交代が進んでおり、技術の継承が課題となっている。</p> <p>カ 工事業者の不足及び職人の高齢化が進んでおり、水道工事現場における技術力の低下が懸念される。</p> <p>キ 他市と比較して委託化が進んでいない。</p>	<p>オ 依然として人口が若干の増加傾向にあるものの、将来は人口減少へ転じるものと推測される。</p> <p>カ 施設・管路の老朽化が進んでおり、更新に多額の資金が必要となる。</p>